

第 58 回北海道小児循環器研究会

開催日：平成 24 年 4 月 7 日土曜日

会場：アステラス製薬大通りビル 3F 会議室

1. Fontan 型手術後の遷延性胸水貯留に関する検討

手稲溪仁会病院 小児循環器科

衣川佳数, 佐々木康

手稲溪仁会病院 心臓血管外科

八田英一郎

Fontan 型手術 13 例のドレーン留置は、6 日から 33 日、平均 16 ± 8 日であった。平均肺動脈圧の高い症例で遷延していた。コイル塞栓の有効性は認められなかった。ステロイド、オクレオチド、13 因子製剤の投与、低脂肪食、化学的胸膜癒着術がなされたが、明らかな有効な手段は認められなかった。

2. 当科で経過観察をしている Septation 手術(S 術)を施行された成人単心室症例の経過

北海道大学病院 小児科

上野倫彦, 武田充人, 山澤弘州, 武井黄太, 古川卓朗

北海道大学病院 循環器外科

橘 剛

症例 1 は 20 歳女性。{S, L, L} 3 歳時 S 術を施行。19 歳時 MS に対し弁置換(機械弁)を行った。現在抗凝固・抗心不全療法を行い通常に就業している。症例 2 は 27 歳男性。{S, D, N} 9 歳時 S 術を施行。術後 1 年後から内服薬なく通常に就業している。いずれも今後注意深い経過観察を要する。

3. Trufill DCS Orbit を用いたコイル塞栓術の有用性

道立子ども医療センター 循環器科

和田 励, 高室基樹, 長谷山圭司, 横澤正人

Fontan 術前の APCA や遠隔期の VVS に対する Orbit を用いたコイル塞栓術の有用性を検討する。Orbit は血管の形状に合わせた留置が可能であり、密に留置することで塞栓性を高めることができる。また着脱式であるため脱落のリスクが少なく安全である。

4. 肺動脈圧の日内変動および薬物動態を評価した特発性肺動脈性肺高血圧の 1 例

旭川医科大学 小児科

中右弘一, 梶濱あや, 杉本昌也, 梶野浩樹, 東 寛

【症例】13 歳男子の IPAH 患者。bosentan および tadalafil の血中濃度を測定し、PAP を持続モニターした。【結果】PH は両薬剤の血中濃度が低下する夜間に悪化していた。【結語】小児では bosentan や tadalafil の薬物暴露は少ない可能性があり、それは PAP の日内変動に関連する。

5. 右室流出路再建後の再右室流出路再建に関して

北海道大学循環器 外科

浅井英嗣, 橘 剛, 加藤伸康, 若狭 哲, 大岡智学, 久保田卓, 松居喜郎

北海道大学循環器 小児科

古川卓郎, 武井黄太, 山澤弘州, 武田充人, 上野倫彦

6. 体外循環開始直後に人工肺入口圧上昇をきたし緊急離脱を余儀なくされた1例

手稲溪仁会病院 心臓血管外科

八田英一郎, 長谷川幸生, 井上陽介, 丸山隆史, 山田 陽, 中西克彦, 酒井圭輔

手稲溪仁会病院 小児循環器科

佐々木康, 衣川佳数

6歳男児 VSD (conus)への体外循環、冷却で人工肺入口圧上昇。血流維持困難となり緊急離脱。諸検査で原因不明の血小板一次凝集。数手の対策をとった再手術は常温人工心肺で問題なく、元気に退院。

7. 当科における Norwood 手術の工夫

北海道大学循環器 外科

橘 剛, 浅井英銅, 加藤伸康, 若狭哲, 大岡智学, 久保田卓, 松居喜郎

北海道大学循環器 小児科

古川卓郎, 武井黄太, 山澤弘州, 武田充人, 上野倫彦

8. PA/IVS, severe TR に対する右室縫縮術の効果に関して

北海道大学循環器 外科

加藤伸康, 橘 剛, 浅井英銅, 若狭 哲, 大岡智学, 久保田卓, 松居喜郎

北海道大学循環器 小児科

古川卓郎, 武井黄太, 山澤弘州, 武田充人, 上野倫彦

9. Fontan 手術まで到達した総肺静脈還流異常症合併無脾症候群の2例

北海道立子ども総合医療・療育センター 心臓血管外科

柳清洋佑, 石川成津矢, 渡辺 学

北海道立子ども総合医療・療育センター 循環器科

和田 励, 長谷山圭司, 高室基樹, 横澤正人

TAPVC(a)を合併した無脾症候群2例。いずれも術前に高度 PVO は認めず、待機的手術が可能であった。症例1, 症例2 はそれぞれ生後4ヵ月目, 5ヵ月目に BDG, TAPVC repair を, 2歳1ヵ月目, 1歳7ヵ月目に TCPC を施行された。術後 PVO なく外来 follow 中である。